

JF職員が見た中国

白酒と智略

栗山政幸 [くりやま まさゆき]
北京日本文化センター

中国では、食事することから関係が始まる、とはよく言われていることであるが、その通りだと感じている。食事の際に欠かせないのが酒類で、北京などの大都会では以前より酒量が減ってきた、と言われるが、やはり、根強い習慣として残っている。

北京に赴任するまでは、中国の酒は紹興酒が中心なのかと思っていたが、北京では、むしろ「白酒」と呼ばれる酒が出てくることが多い。度数50度を越すシロモノで、匂いだけでフラフラになる。これを小さい杯で「乾杯」の挨拶とともに飲み干すのだが、相手ごとに、繰り返すので、相手方が多いと難儀である。中国在住の外国人ビジネスマンの多くは、この白酒にまつわるエピソードを語れるのではないかな。

ところで、赴任当初は、乾杯を重ねても相手方が平気な様子をしているので、「中国人は皆酒が強い」と思っていたのだが、回を重ねて、よく観察していると、実は自分は飲まずに巧みに周りに勤めている人も少なくないことに気付いた。「乾杯要員」がいる場合もあるらしく、「そう言えばさっきまでの会議にはいなかったような……」という人と乾杯することもある。さすがに深謀遠慮の国。宴会とはいえ、智略を尽くして臨まないと潰されてしまうのである。